

巻頭言

大東文化大学スポーツ・健康科学部看護学科 学科主任

杉森 裕樹

最近目につくキーワードがある。「BMI」である。よく知られている **Body Mass Index** の話ではない。英国の **The Economist** 誌が出している「ビッグマック指数 (BMI)」のことである。どうも **Burgernomics** (ハンバーガー経済学) によると、購買力平価説 (**theory of purchasing power parity : PPP**) に基づく理論で、世界のチェーン店 **McDonald's** のビッグマックハンバーガーの価格を比較することで、各国の経済力や物価水準、為替相場などを測定する指標だそうだ。この「BMI」によると、基準となる米国のビッグマックが約 644 円に対し、日本では約 425 円と 6 割である。また、シンガポール約 504 円、タイ約 438 円など、アジア諸国と比べても日本の水準は低い。この傾向は、世界で 3 番目の経済大国であるはずの日本の労働者の所得水準の動向と符合していることを指摘する専門家も多い (野口悠紀雄:『これでよいのか安い日本。ビッグマック指数で中国やポーランドの下位。賃金が低水準、国際的地位も下落』, 2021 年 11 月 7 日, <https://gendai.ismedia.jp/articles/-/88921>)。今や経済協力開発機構 (OECD) 加盟国中 22 位 (38 カ国中) で物価も東南アジアの国より低い。驚くことに先進国の平均値より低い現状だそうだ。円安・株高の流れが、長期的な日本の労働者に係る賃金成長の横ばいを引き起こした要因だと分析する専門家も多く、アベノミクスに対する評価も分かれている。

バブル時代に学生時代を過ごし、1980 年代にエズラ・F・フォーゲルの「**Japan as No.1**」を読んだ世代としては、現在日本人が置かれている国際的状況 (コロナ禍も含めて) には戸惑いがあり、隔世の感を禁じ得ない。これ以外にも、本学で主流になっている「オンライン・リモート (遠隔) 授業」をはじめ「テレワーク」「ワーケーション」「SDGs」「45 歳定年制」「おたく消費」「推し活」「親ガチャ」…, さらに医療分野でも「オンライン医療 (健診)」「郵便 (指先) 検

査」「スマホ de ドック」などなど…新しいキーワードは枚挙にいとまがないほどだ。わが国を取り巻く旧来の常識や世界観も大きく転換せざるを得ない現実を意識するようになった。

本ジャーナルは学科の看護学会運営委員をはじめとした教職員のご尽力で第4巻発行となり、本学科1期生が卒業して完成年度を迎える年度となった。投稿論文、1期生もシンポジストとして活躍した学会の記録【特集1】、当学科の基礎を築いて下さったお二人の先生からのご寄稿【特集2】に加え、健康科学科築瀬澄乃先生からも貴重なご寄稿をいただき、充実した誌面となった。

当学科では来年度（2022年度）から保健師課程も開設されることとなった。これからも本ジャーナルが国際的視野に立って、時代の変化を果敢に受け止め、進取の精神でさらに発展することを切に願う。